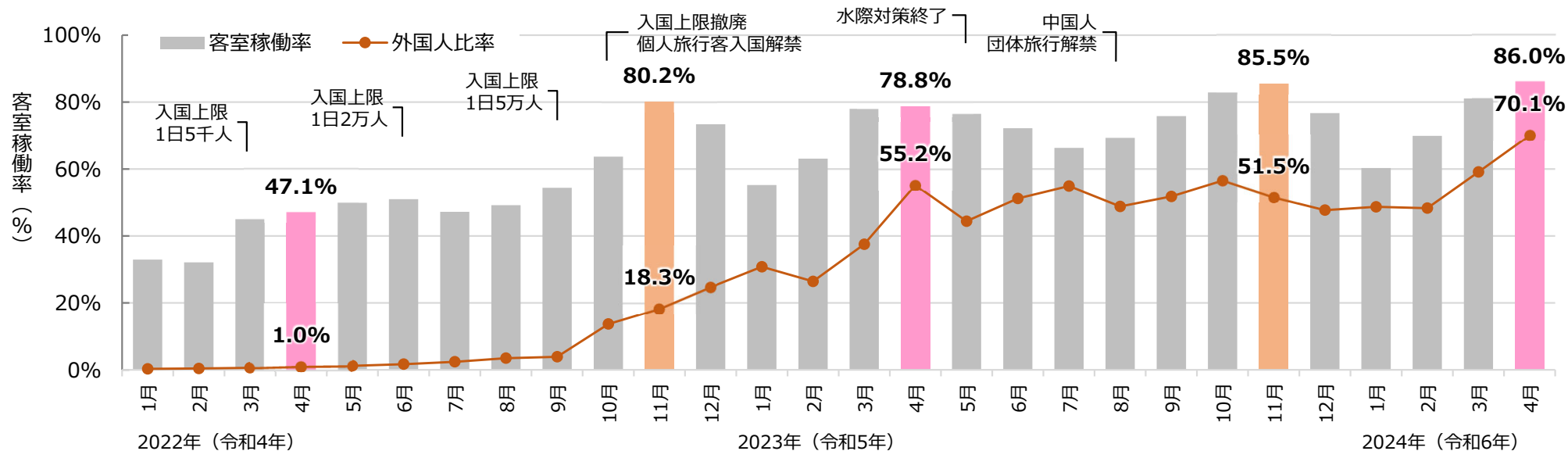


観光地周辺における 現状課題について

○国内外の観光需要の急速な回復に伴い、京都市もかつての賑わいが戻りつつある一方、一部の地域や時間帯に観光客が集中することによって観光地の混雑や道路の渋滞が発生している他、観光バスの路上滞留等の問題も顕在化しており、これらの対応が喫緊の課題となっている。

■客室稼働率の推移（京都市内の主要宿泊施設）



出典：京都市観光協会データ月報

■観光地の混雑や交通渋滞の状況

観光地の混雑（東山・清水坂）



観光施設周辺の交通渋滞（東山・五条坂）

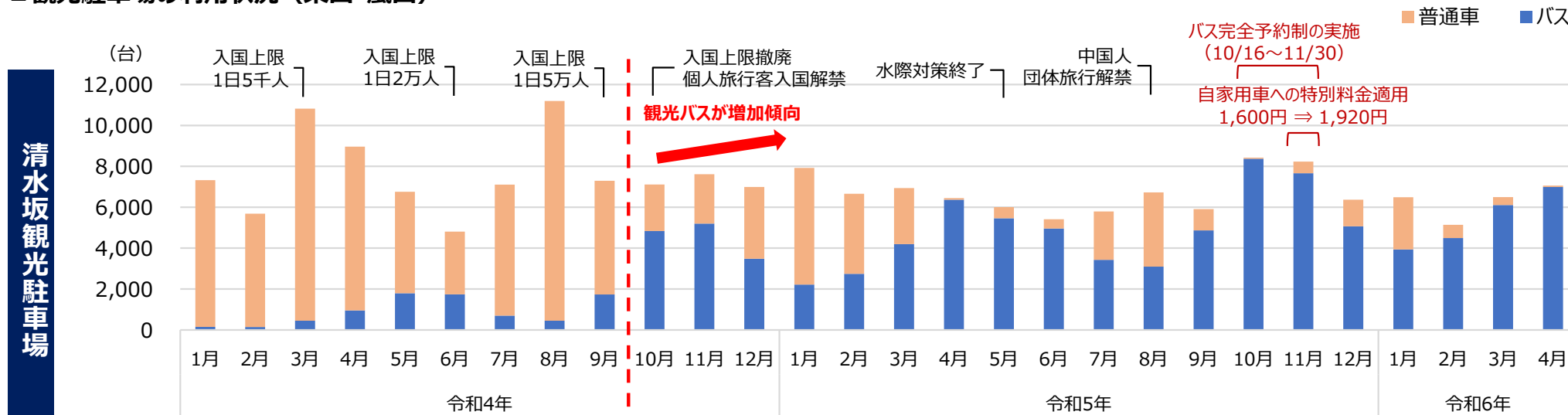


観光バスの路上滞留（烏丸通）

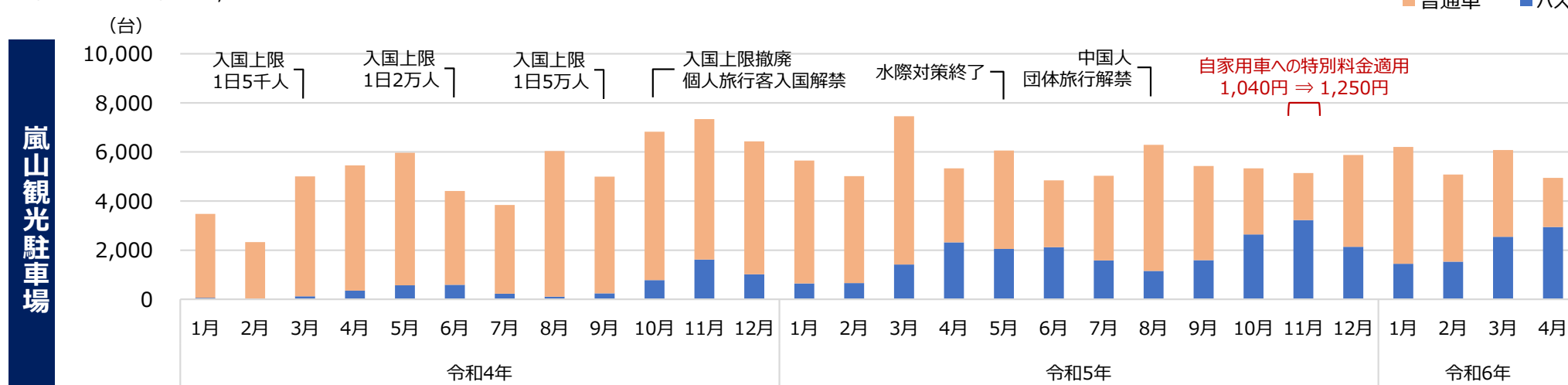


- 観光駐車場は、令和4年9月までは普通車の利用が多かったが、入国制限の撤廃や水際緩和終了等に伴ってバスの利用が多くなっている。
- 特に、清水坂観光駐車場では、春や秋の観光シーズンや修学旅行シーズンに限らず、バスの利用が主となっている。

■観光駐車場の利用状況（東山・嵐山）



駐車台数：普通車59台、バス55台



駐車台数：普通車105台、バス37台

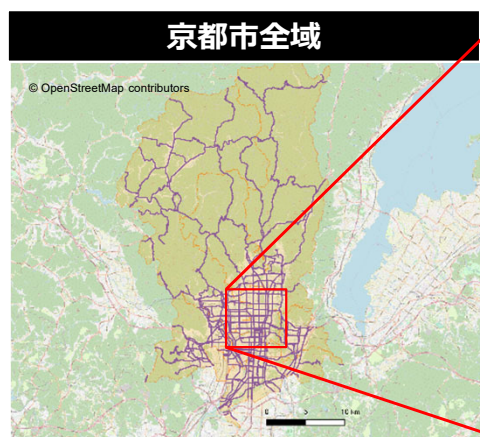
出典：駐車場の利用実績（京都市提供データ）

※観光駐車場はバス・タクシー優先のため、繁忙期および混雑が予想される場合はマイカーの入庫を制限

○京都市中心部の渋滞損失は平日・休日ともに大きくなっており、特に春や秋の観光シーズンは800人時間/kmを超えている。

○京都市内の中でも清水・祇園周辺や嵐山周辺は、閑散期（2月）と比較して観光シーズン（11月）の速度低下が顕著である。

■京都市の渋滞損失時間

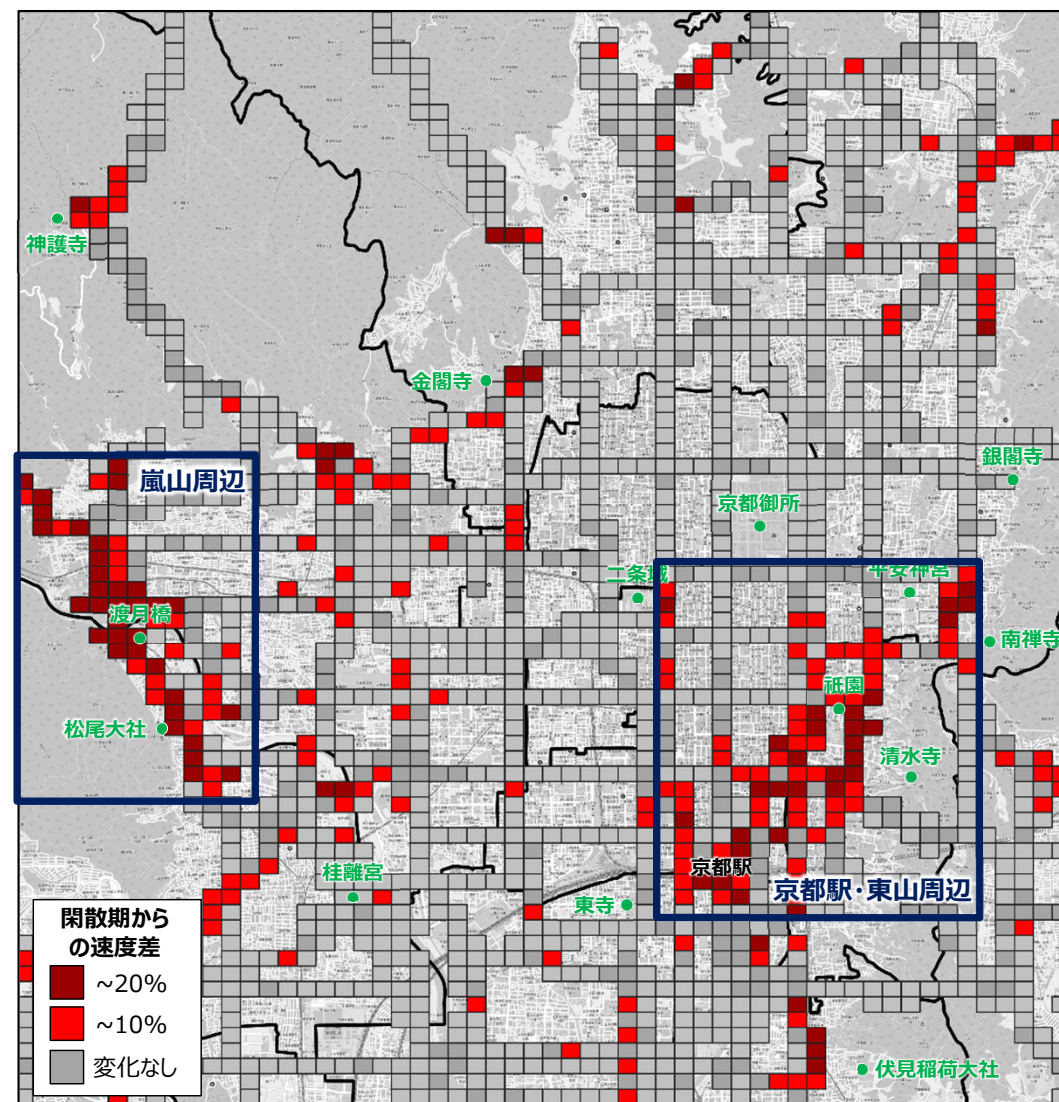


京都市全域 (自専道除く)	損失時間 (人時間/km日)	
	平日	土日祝
R4年1月	264	199
R4年2月	257	193
R4年3月	292	263
R4年4月	274	250
R4年5月	271	232
R4年6月	277	248
R4年7月	280	227
R4年8月	279	230
R4年9月	286	253
R4年10月	292	262
R4年11月	314	269
R4年12月	300	241
月平均 (R4年)	282	239



京都市中心部※ (自専道除く)	損失時間 (人時間/km日)	
	平日	土日祝
R4年1月	776	647
R4年2月	753	609
R4年3月	868	857
R4年4月	804	804
R4年5月	802	743
R4年6月	817	792
R4年7月	832	736
R4年8月	830	739
R4年9月	841	826
R4年10月	866	860
R4年11月	969	898
R4年12月	906	802
月平均(R4年)	839	776

■秋の観光シーズン（11月）と閑散期（2月）の速度比較



東山エリアの渋滞状況(閑散期と観光期の比較)

- 東山エリアの清水周辺（五条坂や清水坂付近）は、清水寺周辺の駐車場に向かう交通が集中し、慢性的な交通渋滞が発生している。
- 特に観光シーズンは、清水周辺へのアクセス路や周辺道路にまで渋滞が広がっている。

■東山エリアの速度状況<渋滞発生時間帯（17時台）の閑散期と観光期の比較>

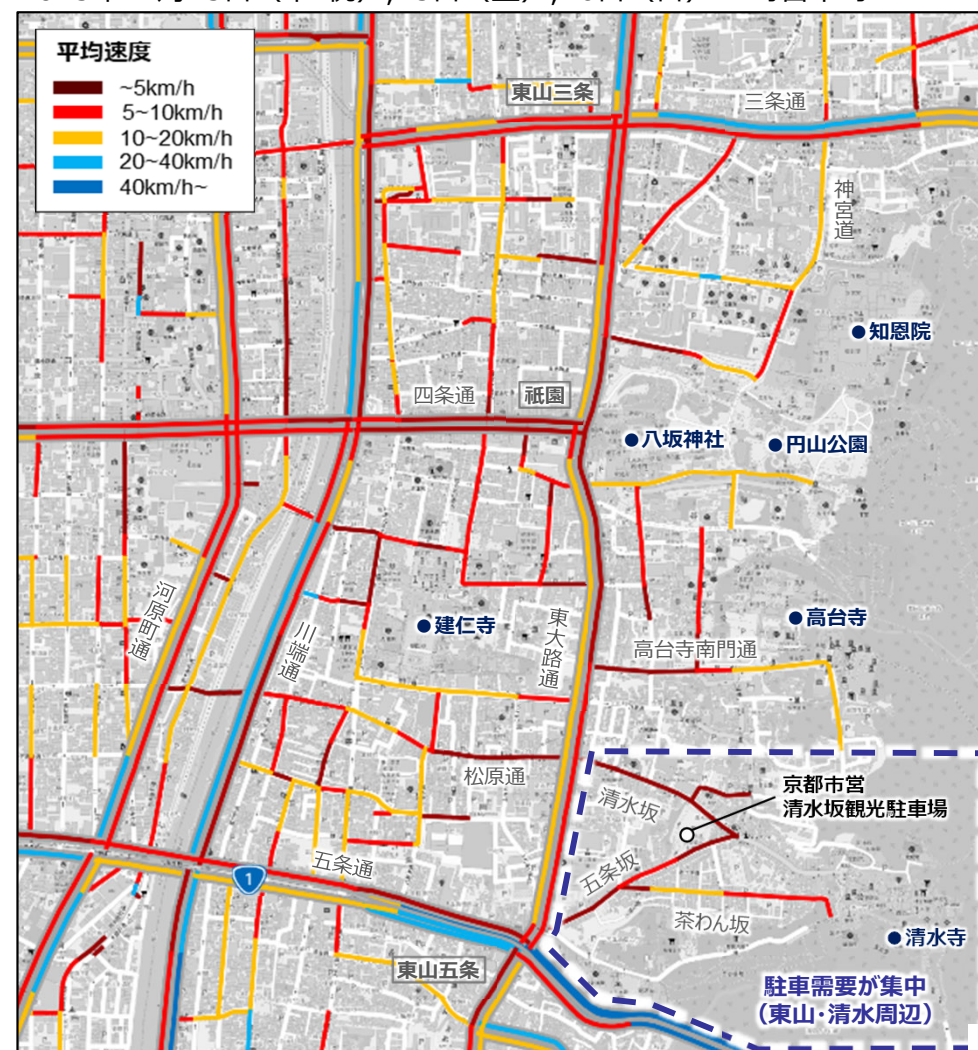
閑散期：2023年2月休日

2023年2月休日 17時台平均



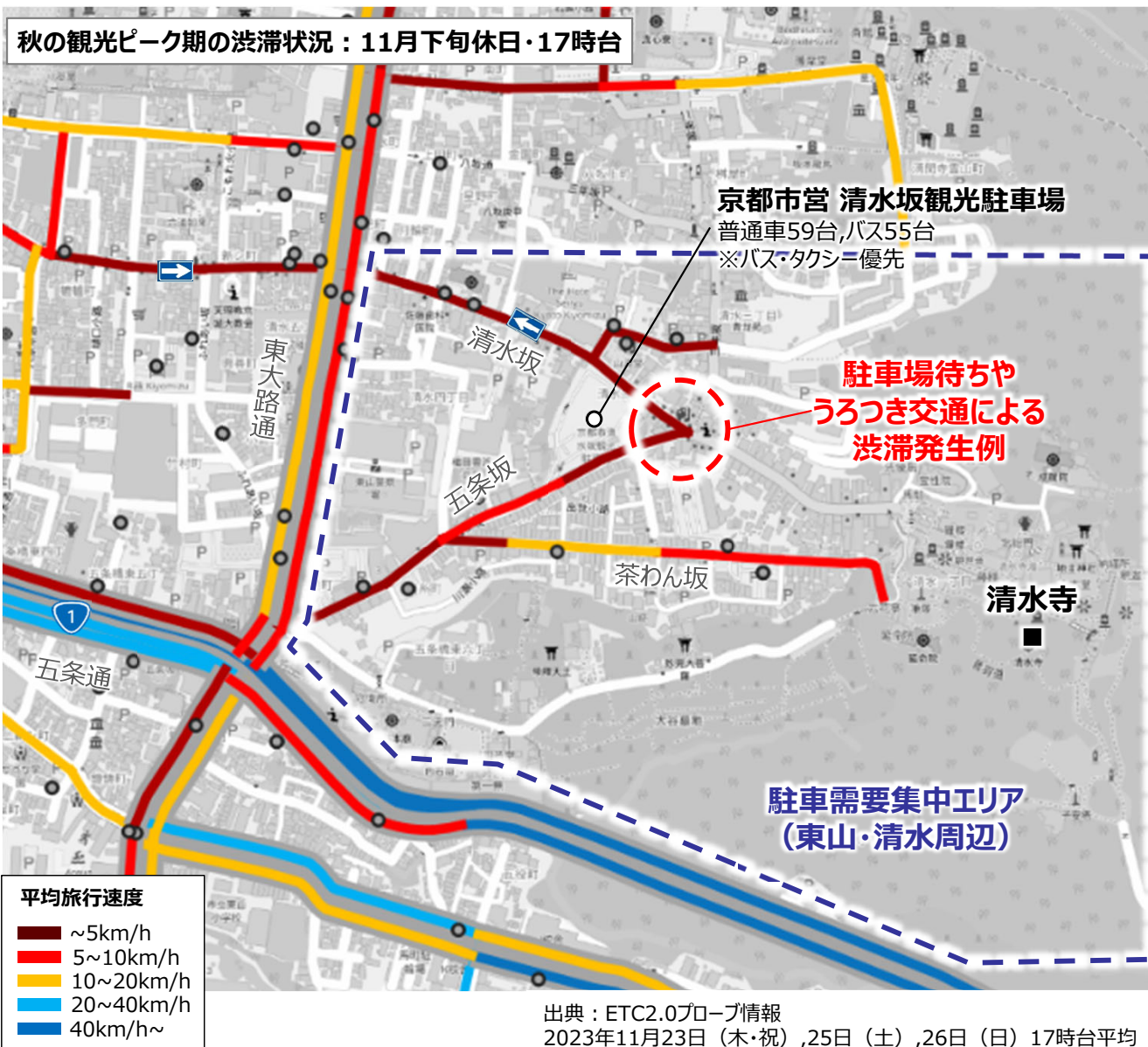
観光期（ピーク）：2023年11月下旬休日

2023年11月23日（木・祝）, 25日（土）, 26日（日）17時台平均



出典：ETC2.0プローブ情報（その他道路の速度は再マップマッチング後の値を使用）

○東山・清水周辺では、駐車場探しのうろつき交通や駐車場待ち等による渋滞が発生しており、適切に駐車需要をマネジメントし、道路の渋滞緩和を図る必要がある。



駐車場待ちによる渋滞

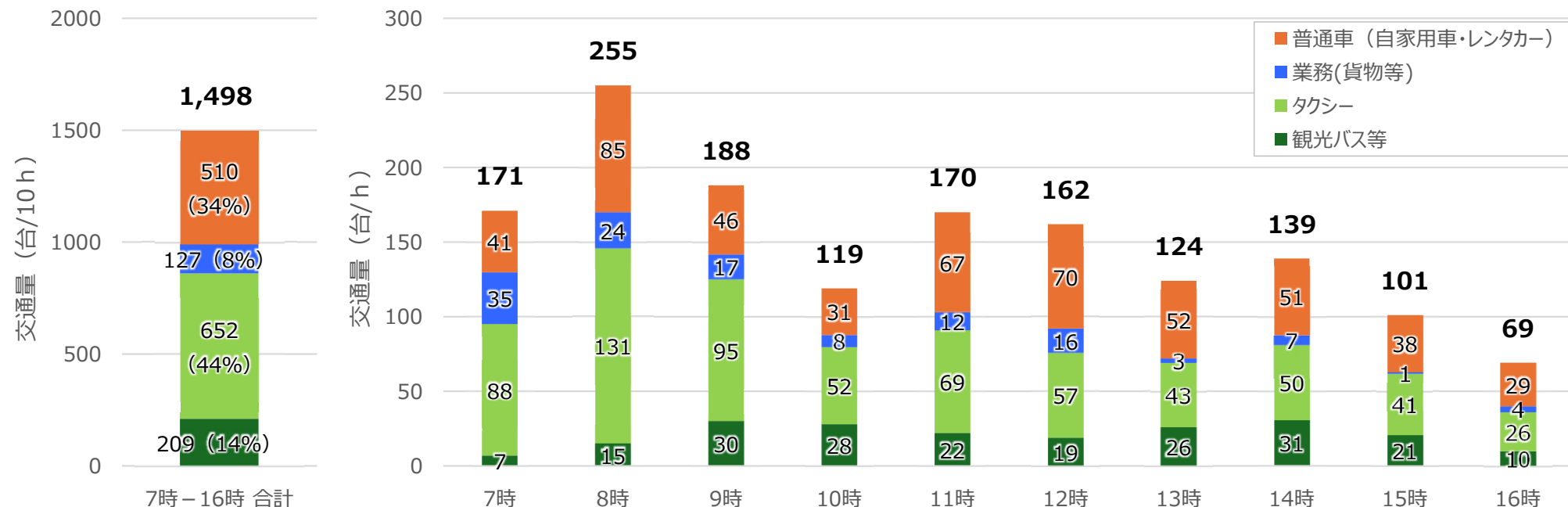


駐車場探しのうろつき交通（Uターン車両）

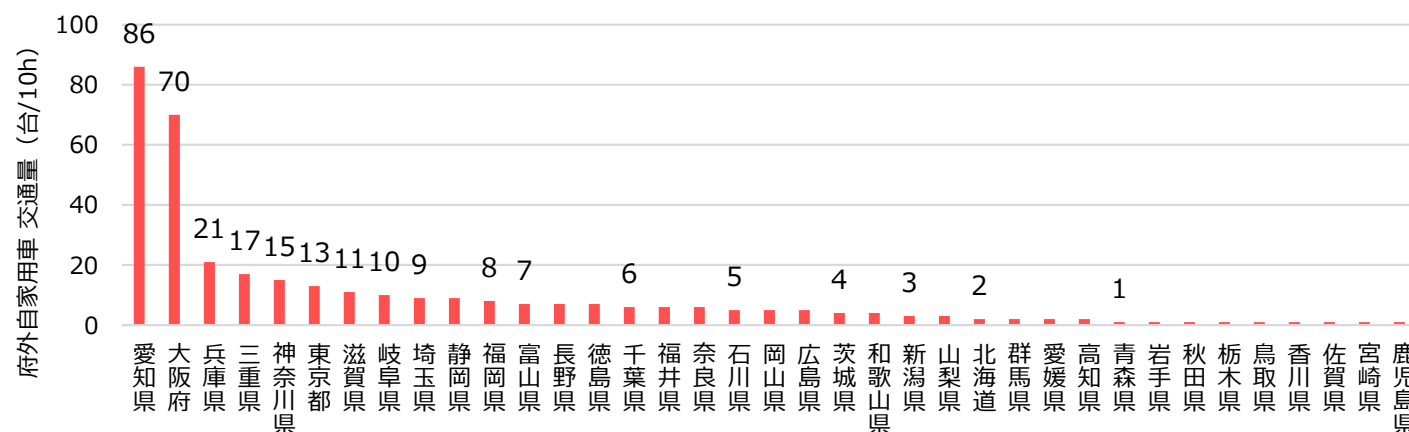
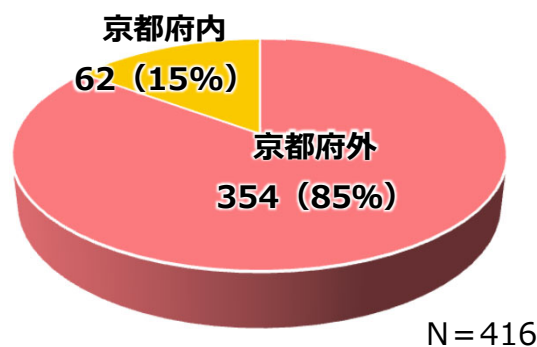


- 五条坂に流入する車両の多くが、タクシー（約4割）や自家用車・レンタカー等の一般車両（約3割）を占める。
- 自家用車のほとんどが京都府外から来訪であり、愛知県・三重県等の中部地方や大阪府・兵庫県等の近畿地方が多い。

■五条坂に流入する車両台数と車種（清水坂観光駐車場前）



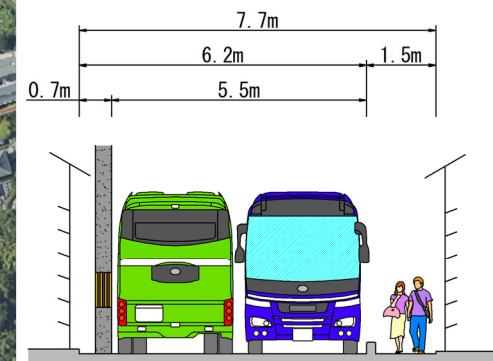
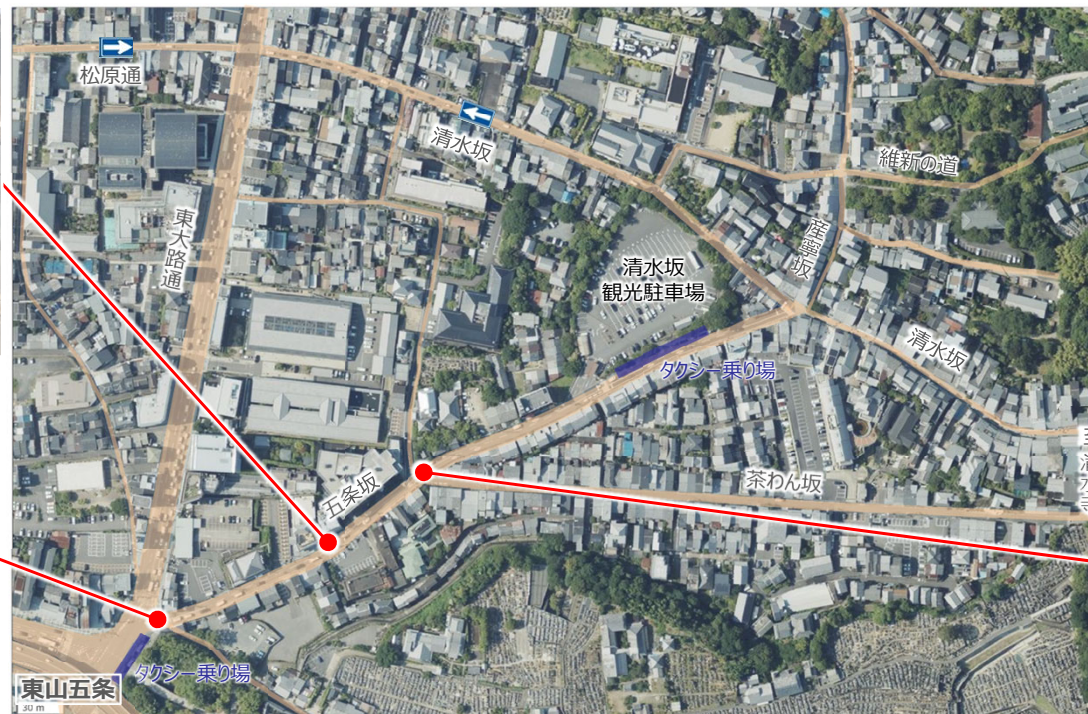
■自家用車の内訳（車籍地）



○一般的な普通車の全長は4.7mであるが大型バスは12mであるため、交通量は209台/10hであるものの交通容量に影響を及ぼしている。

○五条坂は道路幅員が狭いため、観光バスの離合困難による渋滞等も発生している。

⇒ 持続可能な観光地域の実現のためにも、**観光関連事業者（バスや旅行会社等）とも連携が必要である。**



■観光バスの内訳（車籍地）

